

【 檜原村 】 胃がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく胃がん検診の実施状況>

対象年齢（50歳以上：隔年）	している
検査方法（胃部X線または内視鏡検査）	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	899	937	1,836
【東京都調査による対象者率(市町村部)：56.2%】			
実際の受診者数	145	97	242

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	胃部X線(18~39歳)
左記以外の検査の実施	していない

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去5年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	28.7%	18.4%	23.5%
要精検率	11%以下	12.4%	9.3%	11.2%
精検受診率	70%以上	72.2%	100.0%	81.5%
精検未把握率	10%以下	27.8%	0.0%	18.5%
精検未受診率	20%以下	0.0%	0.0%	0.0%
陽性反応適中度	1.0%以上	0.0%	0.0%	0.0%
がん発見率	0.11%以上	0.00%	0.00%	0.00%

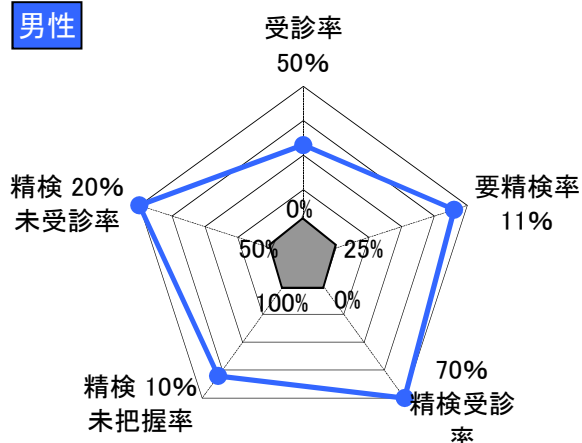
プロセス指標についての解説

リンク先:「とうきょう健康ステーション」>

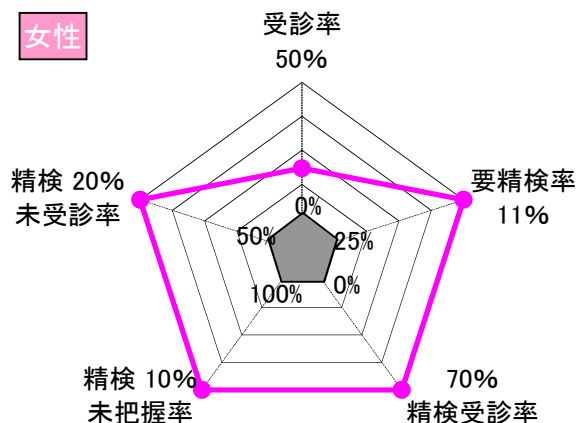
「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検未把握率>

高めの精検未把握率です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握が必要です。

【 檜原村 】 肺がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく肺がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上）	している
検査方法（胸部X線検査及び喀痰細胞診）	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	899	937	1,836
【東京都調査による対象者率(市町村部): 63.5%】			
実際の受診者数	153	112	265

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	18～39歳
左記以外の検査の実施	していない

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去5年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	26.8%	18.8%	22.7%
要精検率	3%以下	2.6%	0.0%	1.5%
精検受診率	70%以上	50.0%	-	50.0%
精検未把握率	10%以下	50.0%	-	50.0%
精検未受診率	20%以下	0.0%	-	0.0%
陽性反応適中度	1.3%以上	0.0%	-	0.0%
がん発見率	0.03%以上	0.00%	0.00%	0.00%

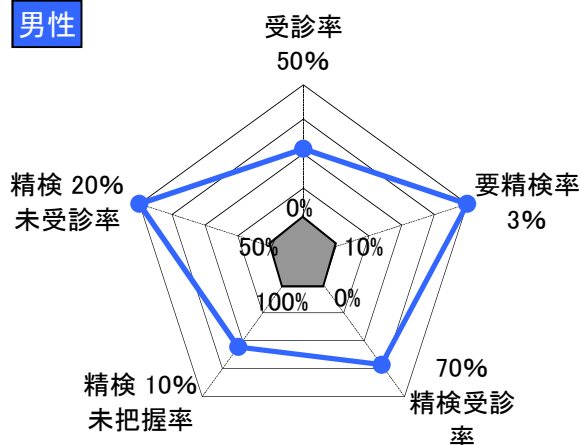
プロセス指標についての解説

リンク先:「とうきょう健康ステーション」>

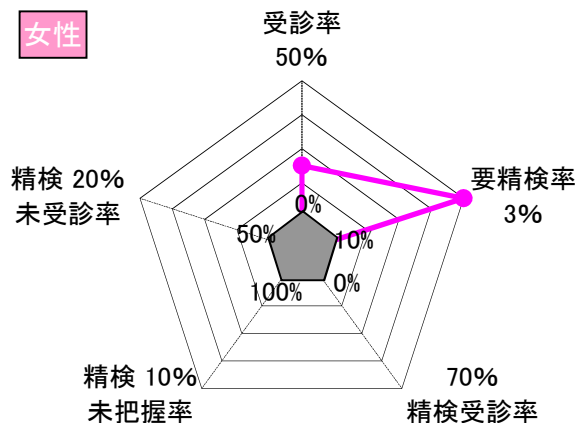
「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

【 檜原村 】 大腸がん検診 プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく大腸がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上）	している
検査方法（便潜血検査(二日法)）	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	899	937	1,836
【東京都調査による対象者率(市町村部)：59.6%】			
実際の受診者数	149	121	270

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	18～39歳
左記以外の検査の実施	していない

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去5年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	27.8%	21.7%	24.7%
要精検率	7%以下	6.0%	7.4%	6.7%
精検受診率	70%以上	66.7%	77.8%	72.2%
精検未把握率	10%以下	22.2%	22.2%	22.2%
精検未受診率	20%以下	11.1%	0.0%	5.6%
陽性反応適中度	1.9%以上	0.0%	0.0%	0.0%
がん発見率	0.13%以上	0.00%	0.00%	0.00%

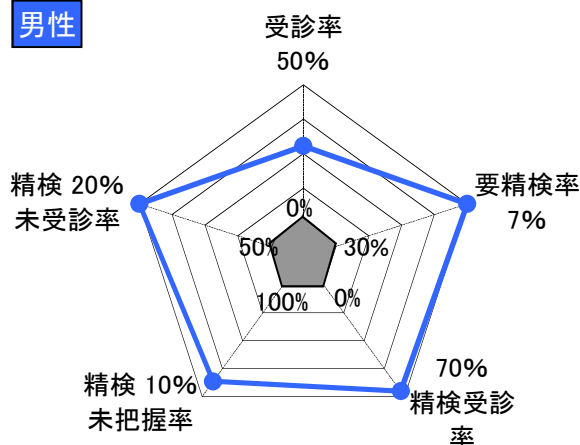
プロセス指標についての解説

リンク先:「とうきょう健康ステーション」>

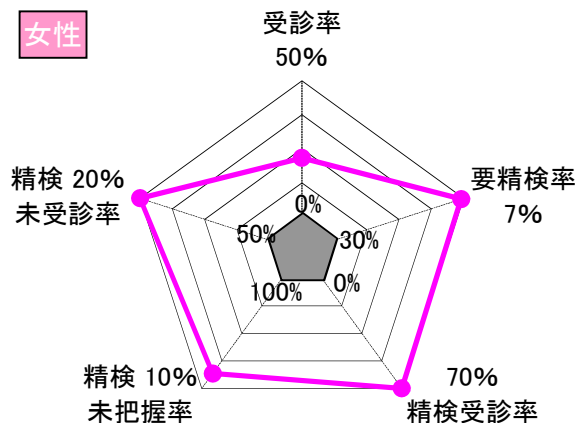
「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

高めの精検未把握率です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握が必要です。

【 檜原村 】 子宮頸がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく子宮頸がん検診の実施状況>

対象年齢（20歳以上：隔年）	毎年
検査方法（細胞診）	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		1,078	
【東京都調査による対象者率(市町村部)：60.4%】			
実際の受診者数		158	

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	間隔について毎年実施
左記以外の検査の実施	していない

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去5年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		29.6%	
要精検率	1.4%以下		0.6%	
精検受診率	70%以上		0.0%	
精検未把握率	10%以下		100.0%	
精検未受診率	20%以下		0.0%	
陽性反応適中度	4.0%以上		0.0%	
がん発見率	0.05%以上		0.00%	

プロセス指標についての解説

リンク先:「とうきょう健康ステーション」>

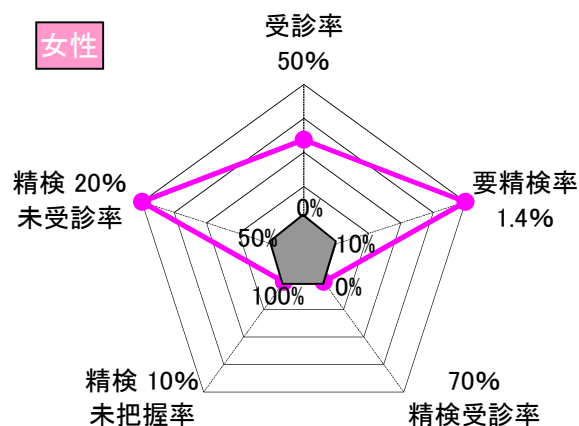
「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。



<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

精検結果が把握されておらず、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、早急に精密検査結果を把握できる体制を検討してください。

【 檜原村 】 乳がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく乳がん検診の実施状況>

対象年齢（40歳以上：隔年）	毎年
検査方法（マンモグラフィ）	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		937	
【東京都調査による対象者率(市町村部)：63.9%】			
実際の受診者数		156	

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	20～39歳、毎年
左記以外の検査の実施	超音波検査(上記年齢対象)

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	している
過去5年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		29.2%	
要精検率	11%以下		5.8%	
精検受診率	80%以上		100.0%	
精検未把握率	10%以下		0.0%	
精検未受診率	10%以下		0.0%	
陽性反応適中度	2.5%以上		11.1%	
がん発見率	0.23%以上		0.64%	

プロセス指標についての解説

リンク先:「とうきょう健康ステーション」>

「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

